

(1) 題材名： いろんな おとに したしもう。

(2) 本時の目標：ほしぞらの ようすに あう おとをみつけて えんそうすることができる。

国頭村立佐手小学校。先日国頭村へき地西3校の合同研究会が開催された。北国小、奥小、佐手小3校の職員と、JICAの研修訪問団を受け入れてくれて、3年生の授業公開を終えたばかりである。佐手小には3名の学級担任（内2名は定臨）と、教務の4名の教諭がいるが、今回の我如古先生の授業公開で全教諭が、教室を開いたことになる。村内でも、安波小、安田小、佐手小、来週の北国小と、すべてのへき地校の教室が開かれたことになる。この事実の積み上げは正直言ってすごい。村内のすべての教諭と教室が一つの理念（一人残らずすべての教師が教室を開く）でつながっている。

平成24年4月、小橋川教育長は「今年度より国頭村の学校教育においては、『学びの共同体』の理念による理想の実現に向かいます。これまで各々の先生方の研究理論や教育理念と整合性を図りながら国頭村の全教諭が一つの理念で「夢と希望を育む教育」の実現に尽力されてほしい。」と、村の教育施策を提案しました。宣言から1年余り、この理想の実現に向けた、各学校における先生方の頑張りにも素直に敬意を表したい。村内すべての先生方に心より感謝します。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【教室経営】見よこの教室後ろ壁面掲示を。美しいの一言である。前年度は安田小学校勤務であったが佐手小でも教師のこだわりは変わっていなかった。児童3名の作品や学習の跡がはっきりうかがえる。子ども達が大切にされている。保護者が見てもきっとうれしいモノであろう。授業前に私が教室に入ると、1年生の女の子がすべての掲示物の説明を勝手に話してくれた。突然の訪問者に話したくしょうがなかったのだろう。屈託のない笑顔でおじさんに「語る」笑顔がまた素晴らしい。



右の写真は、本時の導入でも扱った「虫の声」の提示教材である。これだけ準備されたら子どもの歌声に活気が出るのも必至である。とにかくモデルにしたい教室経営である。



14:00 【授業の準備から始業まで】 切り替える。

先ほどまで、私を相手に喋りまくっていた子ども達がさっさと授業の準備に取り掛かり（写真①）授業が静かに淡々と始まった（写真②）。びっくりなのはその切り替えである。皆で準備する時、楽しむ時、聴く時をわきまえた自然な動きである。つまり日常である。素晴らしい。

本時の授業のために3名に準備された御馳走である。楽しみながらそれぞれの楽器の特性を味わうのである。教師の教材準備に脱帽である。

これが簡単であるか？  
うさぎのクラスか？  
元気なクラスか？  
うさぎのクラスか？  
うさぎのクラスか？  
うさぎのクラスか？



14:01 教師：「虫のこえ」楽しく歌ってみましょう。今日の課題につながる導入である。

子ども達が歌をうたいながら、それぞれの虫の声を使いたい楽器を使って好き勝手にメロディに合わせて表現する。ほんとに何とも言いようのない笑顔で楽しそうである。楽しく歌うとはまさにこの風景。参観している先生方の顔までほころぶ。終わりの「あ〜おもしろい…♪」の笑顔が今日までのすべてを語る。



14:04 すず、トライアングルの基本的な扱い方の練習。技能の習得と確認である。

1年生2名、2年生1名、女の子が3名のクラス。授業者も指導者であり、4人目の仲間である。すずとトライアングルでたたき方や、手のふれ方によって音の響きが変わることなどが共有された。気づかなかった子への「学び」でもある。「こんなしたらこうなる。」たどたどしいが、身振り、手振りで見せることができるところがまたいい。2年生の女の子は、先生を1年生に「ゆずってあげている」なんて優しい子だ。



14:05 授業者は3枚の写真を提示し、「ほしそらの ようすにあう おとをつくりましょう。」



本時のテーマを下ろした。夕方から夜にかけて、町がだんだん暗くなり星の数が増えていく様子の絵である。写真を1枚1枚机において、子ども達の気づきやつぶやきを教師が繋ぎながらホワイトボードに記し夜空の星の様子と、音のイメージを創る。さらに、楽器を決め、音の出し方についても話し合わせ、3枚の絵をつなぐ「お話」までつくった。1年生の一人の子は何でも話したが、2年生の女の子は先輩として、気遣っている様子がうかがえた。もう一人の女の子が突然「この星はかがやいていないよ。」と言いだした。さすが1年生よく見ている、「私にはこう見える。」私の感性を語っている。大切にしたい子どもの本音である。教師が間に入りうまくまとめたというより、うまく納得させて次へ進んだ。



14:26 星空の様子。楽器による音のイメージ。担当楽器の役割分担。「お話」ができた。



14:28 それぞれの担当楽器を練習する。



アートは、それぞれの感性を「学ぶ」。感じ方はみんなちがう。表現の仕方もみんなちがってくる。互いの感性の違いの交流こそが「学び」になる。「こっちの音がいいんじゃない?」「でも私はこっちがいいの。」優しく譲る2年生の女の子でした。

【2枚の写真】 左の写真は、授業最終の発表である。3枚の絵の星空の様子に合わせた「音を楽しむ」である。実に楽しそうに演奏してくれた。



さて、右の写真は授業前に「今日これから、楽しいことやるの。」私に聴かせて見せてくれた最高の笑顔でした。この子達がどんな気持ちで今日の授業に臨んでいるか? 疑う余地もありません。すぐそこのちょっとした未来にも、こんなに楽しそうに向かっている子ども達。一生そうであってほしいと望むのは私だけではないと思う。



我如古先生、お疲れ様でした。この子たちの素敵な笑顔は、教師によって創られた「授業が楽しい」という最高の宝物ですね。1年生と言えども今の「楽しい」は一生忘れないのではないのでしょうか。

しっとり素敵で、観ていて癒される授業でした。さらに左手小の同僚性の高さには「安心」しました。

素敵な授業ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい